b　行動の際に於ける統制についての説明
c　爭議團の規律についての説明
d　食事、外出等の場合に於ける統制

(4)戰略戰術に關する問題
a　ゼネストの意義
b　爭議の基中戰略並に諸戰術の説明
c　交渉戰についての注意
d　スキャップに關する鬪爭
e　ストライキ開始の時期について
f　職場引上げ（もしくは占領）の場合の注意

(5)　家族動員に關する問題

(6)　爭議終了後の活動に關する問題
a　戰鬪的工場委員會の必要について
b　工場委員會の基金積立ての必要について
c　組合組織確立の必要について

(7)ダラ幹共の爭議のやり方の暴露

(8)資本家と官憲との關係の暴露

(ホ)研究會の講師は、分會のメンバーが、一般大衆に語つて、組合の優秀な指導者を引ぱつて來るやうにすること。

(ヘ)かうしたまとまつた研究會のほかに、各職場の中心分子だけを集めた座談會、相談會式會合を出來るかぎり廣汎に持つやうにすることも必要だ。

(ト)又、出來れば、家族を集めての會合も是亦計畫する必要がある。

E　ストライキ基金の積立

(イ)ストライキ基金の問題は、平生自主的工場委員會が出來てゐれば容易に解決のつく問題であるが、それが出來てゐない場合には、かなり困難な問題だ。

(ロ)從來のストライキの場合には、ストライキ開始の直前に至つて、二日分か三日分の日給を積み立てるのが普通だが、これでは、とても長い爭議はやれない。

(ハ)ドイツやイギリスでは、組合がドエライ基金を持つてゐるので、この問題は比較的簡單だが——それでも、今日ではダラ幹共が中々金を出さないようだ。それに大きなストライキになれば、いくら金があつても基金に不足を生ずる。例へば一九二七年のゼネストの場合なんかには基金に不足を生じて困つてゐたので、ソヴイエット聯邦の同志が三百五十萬圓の寄附金を送つた——日本では、この問題は

實に困難な問題だ。(ダラ幹組合の中には相當に基金を持つてゐて、それで大衆をつらうとする奴がゐるが、一般大衆をして彼奴の金をあてにさせるようなことは斷じて排斥しなければならない。)

(ニ)この問題の根本的對策としては——

一、戰鬪的工場委員會を結成せしめ、平生から基金を用意させて置くこと。

二、消費組合運動を發展させて、イザといふ場合にそれを利用すること。

三、左翼勞働組合がストライキ基金を用意すること。

以上の三つの方法以外にないが、そのいづれもが、現在、極めて不充分なのだから、實に困るのだ。

(ホ)今の場合、我々の對策としては、せめて、三四ケ月以前からストライキ準備を開始させて、少くも日給二十日分位づつのストライキ基金を積み立てさせるやうにすべきである。

(ヘ)又、準備期間中に全從業員を消費組合に加盟させるやうに努力し、その力をかりることも必要である。

F　ストライキ開始の時期の選定

(イ)ゼネストの場合なんかは、數年前からストライキを計畫し、絶好の機會をねらつて、火蓋を切るべきであるが、當面個々の工場の爭議は、大抵は、資本家側の攻勢によつて、捲き起こされる場合が多いから、時期選定の問題は、かなりその範圍が狹められるわけだ。

(ロ)殊に、突如大量馘首で來た場合なんかは、時期の選定なんかは問題にしてゐられない。全力を擧げて一刻も早くストライキに入る準備をしなければならない。だが、賃下げが來さうだ、とか、首切りが來さうだ、とかいふので、ストライキの準備に入つたやうな場合などには、いつ火ぶたを切るかが重要な問題になる。無論、敵が豫定通り、賃下げなり、首切りなりで來た時に、それをきつかけにストに入るのが普通だが、準備さへ出來たら、こちらから斷然攻勢に出て、賃下げ、首切りを未然に封鎖して了ふのも一戰術だ。さういふ場合には、よほどストライキ開始時期の選定が問題になる。

(ハ)また、賃下げが既に行はれたが、全從業員が中々奮起